

# 寒風突き道行く市民に訴え

9条の会などが今年初のスタンディング



寒風の吹きすさぶ中、上越9条の会の皆さんなどによるスタンディングが9日、かに池交差点で行われました。

「憲法改悪反対」「9条を生かして平和外交を」などを訴えました。

## 日本共産党 議員団 市政報告会

12月議会の報告 & 新型コロナウイルス感染拡大対策

当議員団は、12月議会の論戦の状況を報告するとともに、年明けに激しく拡大して生きている新型コロナの感染への対策に関するみなさんのご意見をお聞きする「市政報告会」を、緊急に次の通り行います。

感染防止についてご注意の上、ぜひご参加ください。

日時 1月28日(金) 18:30~20:00  
会場 上越体操場ジムリーナ(会議室)

## 日本共産党上越市議員団ニュース

No.736 2022年1月16日

連 橋爪 法一 090-5392-1961(吉川区代石)  
絡 上野 公悦 090-7260-9407(頸城区中柳町)  
先 平良木 哲也 090-1808-6919(上中田(金谷区))

## PCR検査等実施件数(1月7日現在)

PCR検査実施件数	18,581件
陽性件数	351件
抗原検査実施件数	7,304件
陽性件数	19件
上越市内陽性件数	313件

# 地域協議会会長会議で意見続出

7日午後、28区の地域協議会の会長が一堂に会した「地域協議会会長会議」が文化会館で行われました。

今回の会議は、中川新市長の公約の一つである地域分権についての説明と「地域協議会に関する意識調査」結果などの報告が主議題でしたが、市長が地域自治区の活性化方策として打ち出している地域予算などについて、どこまで具体的に語るかが注目されました。冒頭の挨拶で中川市長は次の点を述べました。

◆ 地域分権については主たる公約の一つだ。令和5年度から地域活動支援事業をなくして、それぞれの地域で、どういう課題があり、何をすべきかについて自主審議をしていただきたいと思っている。

◆ 私が考えている地域分権は、地域の活躍、向上をめざしたものだ。地域分権を進めていくためには、多様な地域資源を活かし、地域の実情に合った取組を進めていくことが重要だ。

◆ 仕組みの一つとして、地域の独自予算を考えている。地域の発想を引き出し、取組をすることで、地元に対する誇り、愛情、経済の好循環を生み出していきたい。

◆ 財源については各区に枠を設けた配分ではなく、地域住民と市の職員が議論して地域活性化に向けた事業を主体的に考えてもらい、市議会で審議してもらえようになりたい。

◆ 地域分権の実行にあたっては人材、リーダーが必要だ。地域協議会、住民組織、商工会、市の職員等

に散らばっているが、自分で考えたことを自分で実行していくことが大事だ。地域のことを地域で決めていく自治力を高めていくことが必要であり、実行性のある取組を生み出していきたい。

◆ また、地域活動支援事業について次のように説明しました。

◆ 同事業は市民活動の推進に一定の役割を果たしてきたが、地域協議会の自ら考えたことというよりも、民間からの要請に基づく補助だ。

◆ 地域協議会が自ら考えた地域分権を実現するための十分なツールとは言えず、地域と職員が一緒になって地域の活性化に必要な取組をしていくことが重要だ。

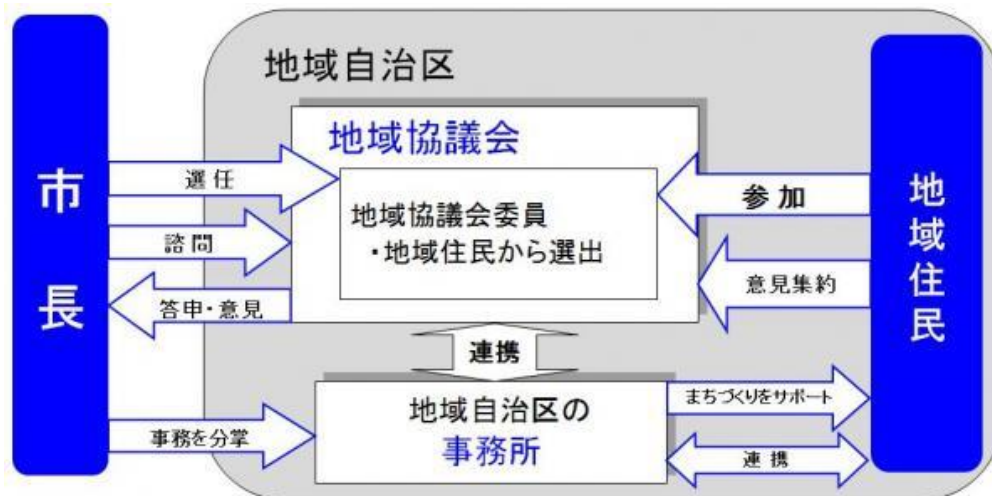
◆ これからは地域独自の予算に進んで地域活性化を図っていきたい。令和4年度は経過措置としてこれまで同様の支援を行うが、採択基準の検討や審査は基本的に総合事務所やまちづくりセンターで行いたい。

この説明に対し、各会長からは、地域活動支援事業を廃止し、自主審議に時間をかけていくことについて一定の理解を示す発言もありましたが、「地域活動支援事業は定着している。半年ぐらしかけて検討する必要があるのではないか。我々が持ち帰って議論できる時間が欲しい」「各地域によって事情が違うことも考えてほしい。市長から地域協議会に諮問してもらい、審議したらどうか」などの意見が相次ぎました。

また、「これまでの会長会議は2時間かけていたはずだ。市長の考えを良く知りたいと思ってきたのに、45分では

短すぎる。新しい取組をどんなふうにするか箇条書きにして示してほしい」「改革には大賛成だが、大事なものは諮問してほしい」「新年度は地域活動支援事業の審査を行政がやるというが、どういう方法をとるか地域協議会と相談すべきだ。手順を踏むことが大事ではないか」などの注文が相次ぎました。

各地域協議会の理解を得るには、さらに時間をかけて説明したり意見を聞いたりすることが必要です。今後の動向を注視する必要があります。



市のホームページより